

会 議 録

会議の名称	平成29年度第1回川越市立美術館協議会
開催日時	平成29年 6月30日(金) 午後 2時00分 開会 ・午後 3時40分 閉会
開催場所	川越市立博物館会議室
議長(委員長・会長)氏名	会 長 宮 澤 光 造
出席者(委員)氏名 (人数)	副会長 梅 津 元 委員 長 江 艶 子 委員 神 山 正 久 委員 井 口 修 一 委員 関 口 恭 裕 委員 山 田 誠 次 委員 尾 崎 勝 美 <span style="float: right;">(7名)</span>
欠席者(委員)氏名	委 員 塚 原 ま り
事務局職員職氏名	館 長 岡 部 秀 子 副館長 永 島 芳 典 副主幹 折 井 貴 恵 指導主事 赤 地 桜
会議次第	1 開 会 2 委員紹介 3 議 題 (1) 平成28年度事業報告について (2) 平成29年度事業計画について (3) その他 4 閉 会
配布資料	・ 次第 ・ 川越市立美術館協議会委員名簿 ・ 資料1 川越市立美術館データ表 ・ 資料2 川越市立美術館特別展データ表 ・ 資料3 アンケート結果 ・ 資料4 川越市美術品等取得基金による平成28年度購入

	作品
・資料 5	平成 2 8 年度教育普及事業記録
・資料 6	平成 2 8 年度決算資料
・資料 7	平成 2 9 年度展示予定
・資料 8	平成 2 9 年度教育普及事業記録及び計画

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
事務局（館長）	開会に先立ちまして、当協議会の傍聴を希望する方が1名います。当協議会は公開としていますので、川越市附属機関等の会議の公開に関する実施基準並びに川越市立美術館協議会の傍聴に関する要領に基づき、傍聴を許可することについてよろしいか、お諮りいただきたいと思ひます。
会長	傍聴を許可することとしてよろしいでしょうか。
委員	（委員全員）異議なし  （傍聴者1名入室）
事務局（館長）	本日の協議会は委員の過半数が出席していますので、川越市立美術館条例施行規則に基づき、会議が成立することを報告します。
会長	1 開会 当協議会は年2回の開催ですが、少しでも川越市立美術館の発展に寄与していきたいと思ひています。
事務局（館長）	2 委員紹介 本年3月31日付け定年退職により委員を辞職した高杉委員の後任として、新たに関口委員が就任しました。
関口委員	本年4月1日付けで埼玉県立川越女子高等学校校長に着任しました。5月に開催された3校美術部展では、大変お世話になりました。
事務局（館長）	今年度の美術館の勤務体制は昨年度と同様7名体制です。そのうち事務職1名が休職しています。また教育普及事業を担当していた谷平主幹が異動となり、新たに赤地指導主事が後任となりました。
事務局 （指導主事）	（自己紹介）
	3 議題(1) 平成28年度事業報告について

事務局 (副館長・副主幹)	資料1「川越市立美術館データ表」について説明 資料2「川越市立美術館特別展データ表」について説明 資料3「アンケート結果」について説明
会長	平成28年度は観覧者が増えて良かったと思います。猫人気による「猫まみれ展」が当たったということでしょうか。
事務局 (副主幹)	展覧会は蓋を開けてみないとわからないのですが、多くの猫好きの方にいらしていただけたという印象を持っています。
会長	アンケートに答えてくれた方の数も多く、関心の高さが伺えます。
事務局 (副主幹)	「猫まみれ展」は、小さな作品が多かったので、当館の戦略としては、なるべく多く展示しようということで、200点以上の作品を展示しました。そのことが観覧者の満足度に繋がったものと思います。猫という同じモチーフばかりが描かれていて、飽きてしまうのではないかと心配していましたが、熱心に御覧になっている方が多く安心しました。
井口委員	川越の街の中を歩いていると外国人観光客の方が多く見受けられます。美術館としてはそうした方々がいらした場合、どのようなサービス、対応をしているのでしょうか。
事務局 (副館長)	館内は開館当初から英語による案内表示がされており、今年度外国人向けの英語版美術館ガイドを作成して、来年度から配布したいと考えています。また平成28年10月から外国人来館者のカウントを取り始めました。
井口委員	英語版のガイドを作成するということは、英語圏からの来館が多いのか、それとも英語が一般的だからということでしょうか。
事務局 (副館長)	博物館では多言語でパンフレットを作成していますが、予算の関係もあり、美術館としてはまずは英語版を作成し、反応を伺いたいと考えています。

井口委員	中国からの来館者が一番多いと思うのですが、個人団体どちらが多いのでしょうか。
事務局 (副館長)	2、3人の小さなグループでいらっしゃる場合が多いという印象です。
尾崎委員	アンケート結果ですが、各特別展において初めて来館した方や市外からの方が半数を超えている数値となっています。アンケートに答えた方というのは、ある目的を持って美術館に来ていると思うので、初めての方や市外からの方が必然的に多くなり、2、3%の回答率で半数を超えたとしても、素直には喜べないという印象を持ちました。
事務局 (副主幹・副館長)	資料4「川越市美術品等取得基金による平成28年度購入作品」について説明
副会長	平成24年度以来の基金による作品購入ということですが、基金の取扱いや購入する際の基準のようなものはあるのでしょうか。
事務局 (副主幹)	平成24年度は開館10周年でしたが、たまたま小茂田青樹の初期の良い作品が出たので購入しました。今回の小村雪岱作品については、今年度開館15周年記念冬季特別展で「小村雪岱展」を企画しており、購入すれば目玉作品のひとつになるということ、また何よりも作品の内容が良いものでしたので、川越ゆかりの作家作品を収集することを目的とする当館としては、購入に踏み切ったということであり、本来であれば基金で作品を購入した場合、翌年度に市の予算で買い戻し、常に基金設定金額が保たれるのですが、財政状況厳しい折り、買い戻すことができていない状況です。
尾崎委員	基金の額は、条例に110,600,000円と定められています。したがって常にこの額を保たないといけないわけですが、基金の補てんは理想でなく当然です。おそらく今までそうしてこなかったというのが、設定金額の一割程度になってしまったという結果だと思います。予算を付けるか否かは財政当局の判断にもなりますが、基金で購入した金額は、次の年度で補てんしなければいけない。事務局

事務局（館長）	<p>は予算要求すべきと思いますので、努力していただきたい。</p> <p>検討していきたいと思います。</p>
尾崎委員	<p>作品の箱書きに、大正十四年大阪プラトン社に有り云々と過去形で書かれていますが、この箱書きはいつ頃書かれたものなのでしょうか。</p>
事務局（副主幹）	<p>何年かは不明ですが、川口松太郎がプラトン社からいなくなっているものだと思います。この箱書きについては、川越市立美術館美術品等選考評価委員会から筆跡を確認するよう御指摘いただきましたので、川口松太郎の直筆資料がある日本近代文学館まで調査に出向きました。戦前の筆跡に近く、晩年の筆跡とは異なっていたので、比較的早い頃のものと思われる。</p>
会長	<p>今回は画廊から連絡があったのでしょうか。</p>
事務局（副主幹）	<p>そうです。定期的に作品を購入していると画廊業界から情報も集まってくるのですが、購入しなくなると全く情報が得られません。コレクションに新しい血を入れることは、情報が入ってくるという点でも美術館活動にとって大事なことだと考えています。今回は画廊がおさえている段階で当館に話を入れてくれました。</p>
井口委員	<p>博物館や美術館はモノを見せるところなので、モノがなければ始まりません。モノにはその時の価値に応じた価格があるため、作品をすぐに購入するためには基金でないと対応できません。基金に充当しておかないと作品を購入できず、結果的に情報も入らないということなので、その点はきちんと対応をとっていただきたい。</p>
会長	<p>公の美術館では、作品購入に何百万円も支出することに対して、市民の理解が得られないということもあります。その点基金で購入するとあまり目立たないということもあるのかも知れません。</p>
井口委員	<p>10割の充当は無理としても、毎年積み重ねていけばいいのでは。</p>

会長	毎年購入するわけではないのですから、積み重ねていけば少しでも底が尽きるのを伸ばせる。
山田委員	毎年積立金を入れていくということにはできないのでしょうか。
事務局 (副館長)	館内で検討し、部内でも協議していきたいと思います。
関口委員	来館者が増え、収益が上がっているということを根拠に予算を増やしてもらうということにはできないのでしょうか。
事務局 (館長)	毎年度、展覧会の内容は変わりますので、それに係る費用を積算して要求することはできますが、収入に関しましては、前年度が多かったから今年度も多いとも限りません。過去3年間の平均等を鑑み、予定の収入としています。収入があるから支出分が付くかということ、そのようなことではありません。
事務局(指導主事・副館長)	資料5「平成28年度教育普及事業」について説明
会長	「3校美術部展」ですが、7日間で1,264人の入場者数というのは、市民ギャラリーとしては多い方なのでしょうか。また継続して開催する予定はあるのでしょうか。
事務局 (副館長)	多いです。続けて開催していきたいと考えています。本日の協議会の中での御意見なり、御提案なりがあれば、7月中に総括会議を予定していますので、報告したいと思っています。
尾崎委員	「3校美術部展」のことを知らなかったのですが、どの範囲にどのようなPRを行ったのでしょうか。
事務局 (副館長)	埼玉県高等学校文化連盟に所属する埼玉県内すべての高校及びタウン誌、新聞折り込み誌にダイレクトメールを送りました。また川越新聞記者会にはパブリシティーシートを提供しました。

長江委員	川越美術協会としましては、絵画だけでなく書などの分野も取り上げていただきたいと思います。「川越市美術展覧会」にも若い方に参加していただきたいので、これからはそうしたことも認識して開催していただきたいと思います。
関口委員	川越女子高等学校校長としましても、引き続き開催していただきたいと考えています。
会長	私は実際に拝見し、とてもいい企画と思いました。ただOBの作品がありましたが、どうしてもレベルが上がります。1回目としては華々しい展示で良かったと思いますが、2回3回と続けていく中で、そうOBの作品に頼るわけにはいかないと思います。そうなると現在の高校美術部の力がそのまま反映される展示となり、厳しくもなりますが、面白くもなると思いました。また3校のキャプションがバラバラで分かりづらかったです。共通のフォーマットで高校毎に色を変えると見やすくなると思います。生徒さん個人だけでなく、高校美術部の性格みたいなものが伝わってくる、そうした面白さも出てくると感じました。
事務局 (副館長)	資料6「平成28年度決算資料」について説明
会長	岩崎勝平「少女嬉々」の作品修復ですが、クリーニングを行ったということでしょうか。それとも色の欠損を足したりしたのでしょうか。
事務局 (副主幹)	補彩とクリーニングを行いました。想定していたよりも作品の状態は悪くなく、ひび割れ、絵具落ちもありませんでした。しかし50年分の埃がたまっており、その状態で美術館収蔵庫に入れることはできませんので、費用もそれなりにかかる想定していたのですが、この価格で済んで良かったと思っています。
尾崎委員	修復はどのようなところに依頼するのでしょうか。
事務局 (副主幹)	都内にある洋画修復の専門業者2者で見積合わせを行い、価格が低い方をお願いしました。



会長	美術館は開館して15年を迎えるということで、そろそろ大規模修繕の時期になってきます。
事務局 (副館長)	老朽化による修繕が増えているため、特に空調設備などこまめに修繕を行い、丁寧に扱っているという状況です。
尾崎委員	ほかに問題があるところはあるのでしょうか。
事務局 (副館長)	3月に北側壁面を塗り直しました。また創作室の屋根の木材部分の傷みが激しいため修繕する必要があります。一番の問題は照明です。展示室のスポットについては、製造したメーカーがすでに廃業しており、壊れたらその分減るだけです。現在使用しているハロゲンランプも先日製造中止になり、今後は他のメーカーの製品で対応していく予定です。したがって、LEDに移行していく必要があるのですが、現在の企画・常設展示室の照明用ダクトは特殊なものが設置されており、LED照明をそのまま現在のダクトに設置することができません。よって、まずはLED用の照明用ダクトを設置する必要があることから、来年度実施すべく今年度予算要求を行う予定です。
会長	美術館は赤字運営ということですが、どういう処置がなされるのでしょうか。
事務局 (副館長)	美術館の特定財源だけで運営することは無理ですので、一般財源、その他の財源から充当されることとなります。
井口委員	職員の人件費は職員課で対応すると思いますが、館内の受付や看視の人件費は委託料から支払うのでしょうか。
事務局 (副館長)	委託料から支出しています。
事務局 (副主幹・指導主事)	3 議題(2) 平成29年度事業計画について 資料7「平成29年度展示予定」について説明 資料8「平成29年度教育普及事業」について説明
会長	5月の子ども鑑賞会の参加人数が増え、参加した保育園が増えたということですが、小さなお子さんたちは「驚き

<p>事務局 (指導主事)</p>	<p>の明治工藝」をどのような様子で鑑賞していましたか。</p> <p>当初子どもに工芸を鑑賞させるのはどうかという意見もありましたが、実際は蝉などの昆虫の作品や動く蛇の映像もあったので、声を上げて喜んだり、これなら自分でも作れると言っていたりする子もいました。ジュニアアートスクエアでも、紙コップを素材として動く蛇を作り、それを手に持って展覧会を鑑賞するという企画を実施しました。子ども鑑賞会に出席した幼稚園の先生方に作り方を教えたところ、園でも実践してみたいということでした。そのようなことから、この展覧会は子どもにとって違和感があるという感じはしませんでした。</p>
<p>事務局(館長)</p>	<p>「驚きの明治工藝」の企画協力である東京藝術大学の原田一敏名誉教授からも子どもに鑑賞してほしいということでしたので、当初予定してなかったのですが、急遽企画し実施しました。</p>
<p>長江委員</p>	<p>「驚きの明治工藝」は2回拝見しました。昔の職人の技術を間近で観ることができ、展示も素晴らしかったと思います。ただ図録が売り切れていて残念でした。</p>
<p>尾崎委員</p>	<p>タッチアートコーナーですが、開館当初は目の不自由な方に作品を直に手を触れて鑑賞してもらおうという考え方があったと思うのですが、当初の段階のイメージから遠くなったように思います。現在の意図する考えをお聞かせいただきたい。</p>
<p>事務局 (副主幹)</p>	<p>川越市立美術館を設置するにあたり、関係機関から御意見をいただき、目の不自由な方も楽しめる場所ということで設けられたコーナーなので、そのコンセプトを忘れないようにしています。また、美術館に来る方は必ずしも美術に詳しいとは限りません。目の不自由な方への提供ということをお忘れなく、美術の初心者が普段触れることのできない作品を実際に触って鑑賞することで、美術に親しみを持ってもらいたいというコンセプトで運営しています。</p>
<p>尾崎委員</p>	<p>今までに作品に触れるということで、問題が起こったことはあるのでしょうか。</p>

事務局 (副主幹)	<p>作品が壊れたことが3件発生しています。1件目はテラコッタの作品をバチで叩くという作品でしたが、作家は壊れてもいいということでしたので、問題にはなりませんでした。2件目は接着剤で止めていた石が衝撃で離れてしまったというものです。その時も問題にはなりませんでした。3件目はエントランスに展示した咲いている花のような作品だったのですが、観覧者がそれを椅子と勘違いして座ってしまったというものです。ちなみにタッチアートコーナーの実施については毎回保険に入っています。</p>
尾崎委員	<p>エントランスに置く作品は、タッチアートコーナーの延長なのでしょうか。</p>
事務局 (副主幹)	<p>タッチアートコーナーは入場者から見えないところにあり、気付かずに帰ってしまう方もいるため、エントランスに作品を置き、タッチアートコーナーへ導く看板を設置して、導線を確認しています。作家からすれば自分の個展なので大きいものも展示したいという気持ちがあり、当館としてもそうした気持ちに応えたいと思っています。</p>
会長	<p>現在エントランスにあるステンレスの囲いは少々強すぎると思うので、何らかの対処をお願いします。また私は立体が専門なのですが、直接作品に触れて手から感じる情報というのはものすごくあることを理解しています。タッチアートコーナーは、実際触って触覚で作品に親しむことができるという意味で貴重だと思いますが、目の不自由な方の来館が少ないとのことで、今後続けていけるのでしょうか。</p>
事務局 (副主幹)	<p>今後も続けていく予定です。石の作家は素手でつくっているので触られることに抵抗はないのですが、鉄の作家は触ると錆びるので手袋着用でお願いしたい等、使用する素材によってそれぞれ展示に対する気の使い方が違います。毎回同じ素材では面白くないため、さまざまな素材を選んで実施しています。作家にはなるべく素手で触れるものをお願いしたいと無理強いしてしまうことにはなるのですが、今後も協力していただける作家を探していきたいと考えています。</p>
副会長	<p>平成29年度展示予定ですが、展覧会の内容は良いけれ</p>

<p>事務局 (副主幹)</p>	<p>ども、さて集客に向けてどう広報するか。例えば「中林忠良展」のクオリティーは高いと思いますが、作家の方のお名前だけではなく、より広く魅力をアピールできるサブタイトルをつけるなどの工夫をしていただきたい。</p> <p>中林先生は現在御活躍中の作家ですので、先生の考え方を第一に優先する必要があります。現在サブタイトルについて検討しているところです。</p>
<p>事務局 (副館長)</p>	<p>広報につきましては、広告費の予算がありますので、館内でどの展覧会をどの広告媒体に掲載するか協議をしているところです。まだ決定していませんが新聞広告に掲載し、掲載後その効果を図っていきたいと考えています。</p>
<p>関口委員</p>	<p>タッチアートコーナーですが、市内の高校・特別支援学校校長で構成するブロック校長会があり、来週会議がありますので、その際に美術館のタッチアートコーナーを宣伝させていただきます。</p>
<p>神山委員</p>	<p>3 議題(3) その他</p> <p>川越は700万人を超える観光客が訪れますが、川越市民の文化に対する感性がどんどんと失われているように感じています。観光客が増えてもそこに住んでいる市民の文化レベルが上がらなければ、お客様から質問されたり、また自分たちがよそに行ったときに、川越の説明ができなかつたりします。とても恥ずかしいことです。昨年東京国立博物館で小林斗盦生誕100年記念の展覧会が開催されました。例えば、川越市でも斗盦先生生誕100年を顧みてということで、広報にA4の1枚の美術館だよりを差し込んでいただく。その後は小村雪岱生誕130年、相原求一朗生誕100年と続けていくのもいいでしょう。今何かをしなければ斗盦先生の存在が市内から消えてなくなってしまいます。川越市出身で文化勲章を受章しているのは斗盦先生ただひとりで、市民の誇りであると思います。先程中国からの来館者が多く来ているとのことですが、斗盦先生は中国で有名です。斗盦先生の生家があった場所に碑や説明文があれば、先生のことを知る外国の方々はその偉大な先生がここで生まれたということを知り、感銘を受けるのではないのでしょうか。今こそ美術館から文化を発信していく必要があります、それを行うことにより来館する市民</p>

<p>事務局 (副館長)</p>	<p>も続いていくものと思います。</p> <p>前回の協議会の中で、市民が川越ゆかりの作家を知らないのではないかということ御指摘いただきました。それを受け、4月から広報紙の美術館の枠に常設展で展示する川越ゆかりの作家の名前を掲載するようにしました。今回川越ゆかりの作家をシリーズ化して取り上げるというのは、貴重な御提案だと思いますので、検討してまいりたいと思います。また小林斗盒先生についてですが、先だって観光課、博物館と情報交換を行いました。篆刻の分野は非常に専門的であり、市から情報を出しても市に専門家がないため、質問に答えられないということもあり、情報の出し方が非常に難しい面があります。そうした点も踏まえ、今後どのようなかたちで小林斗盒先生に関することを取り上げていくか話し合っていきたいと考えています。</p>
<p>神山委員</p>	<p>小林斗盒先生のお弟子さんがいらっしゃいますので、そうした方々から情報を得たり、御協力いただいたりすることも必要だと思います。文化の日を前に何らかのかたちで広報していただきたいと思います。努力していただきたい。</p>
<p>事務局 (副館長)</p>	<p>次回、第2回協議会ですが、年明けに開催したいと考えております。</p> <p>4 閉会</p>